

2013 年度

地理学野外実習報告書VI

大 分

OOITA

平成 27 年 3 月

信州大学教育学部自然地理学研究室

まえがき

2013年度地理学野外実習は、2013年9月21日～26日までの5泊6日の日程で実施した。前半の2日間は巡検、その後の4日間に調査実習を行った。昨年度より調査実習の期間が1日長いのは、例年よりもさらに信頼できる質・量のデータを集めることをねらったことである。

参加者は清水(龍)、澤崎、清水(み)、山崎、門田、飯田、小倉、坂本、石澤の学生10名と、引率の廣内先生、OBの羽生さんを合わせた12名であった。昨年度に続き自然地理学研究室の学生だけでなく、他の研究室の学生もこの野外実習に参加している。

新幹線や鉄道各線を乗り継ぎ現地を目指し、9月21日午前10時にJR熊本駅に集合した。

初日の巡検では、阿蘇火山の草千里や火口、テフラ露頭を観察後、阿蘇火山博物館、八丁原発電所展示館を見学し、森のプチホテルで1泊した。2日目は湯布院町内、熊野磨崖仏、焼酎酒造を見学後、大分平野の断層崖や段丘露頭を観察するコースであった。2日間とも天気に恵まれ充実した巡検となった。

調査実習の拠点は別府市で、カオサン別府はまゆうに宿をお世話になった。23日からは各自が事前に決定し準備を進めてきたテーマに沿って各々の調査を実施した。調査は海成段丘、植生変化、堆積環境といった自然地理学分野から、防災文化、地域発展といった人文地理学分野まで、様々なテーマに取り組んだ。学生は個人調査に先立ち、事前に資料収集や分析を行い、現地では単独での現地調査や聞き取り調査などを行った。各々の調査も佳境にさしかかる9月25日の夜には、脂の乗った関鯖と美味しい焼酎を堪能し、本野外実習の完遂を祈念した。また、泉都・別府から湧出する温泉が、終日調査に奔走した学生の心身を癒し、翌日の調査に向かうための英気を養ったことは記しておきたい。

実習前に3回の事前指導、実習終了後は3回の事後指導会が開かれ、廣内先生のご指導の下、皆忙しいなか合間をぬって調査準備や分析、まとめを行った。本報告書はその成果をまとめたものである。懸命にデータに向き合った学生の努力の結晶をご覧いただけたら幸甚である。

最後に、調査にあたってお忙しい中、地図や資料の収集、聞き取り調査に御協力頂いた行政機関、団体、地域の皆様、会社や個人の方々に心から御礼申し上げ、個々に感謝の意を表します。

平成27年3月7日

門田寛一(信州大学教育学部倫理学研究室 [OB](#))

# 2013 年度地理学野外実習報告VI

## 大分

### 【目次】

まえがき

大分平野における断層構造を考慮した第四紀後期以降の地形発達 . . . . . 1

清水龍来

高田輪中地区における水害と人々の暮らし . . . . . 17

小倉妙子

プラントオパール分析からみる下郡桑苗遺跡の稲作農耕開始時期 . . . . . 25

飯田杏奈

古文書と津波堆積物から見る別府湾地域の古津波像 . . . . . 30

坂本絵梨

1975 年大分県中部地震の被害と地形条件の関係 . . . . . 39

石澤彩佳

別府市<sup>かなわ</sup>鉄輪地区における噴気の利用実態 . . . . . 45

山崎福太郎

あとがき